

鎌足の生誕地

かま たり

鹿

島神宮の西、鹿嶋市下生地区に鎌足神社があります。

鎌足とは、中大兄皇子らと共に、蘇我氏を滅ぼし、大化改新をなした中臣鎌足で、後に藤原姓を賜り、藤原氏の祖となった人物です。

一般的には、鎌足の生誕地は奈良県といわれていますが、鹿嶋市が生誕地であるという言い伝えも多く残っています。

一説によると、鎌足の父は中臣御

食子といい、鹿島神宮に仕える

神官でした。

御食子は若くして都に学び、妻を

伴って帰郷しました。

そして、鹿島の地で鎌足が生まれました。

ちょうど稲刈りの季節でしたので、

その稲刈りには欠かせない大切な

道具である鎌にあやかり、「鎌子」と

名づけられました。

鎌子が、すすくと成長し、二歳になった時のことです。

鎌子の母の夢の中に白狐があらわれ、

「この子は、将来、国のためにりつば

な仕事をする人です。なおざりに

することなく、しっかりと育てな

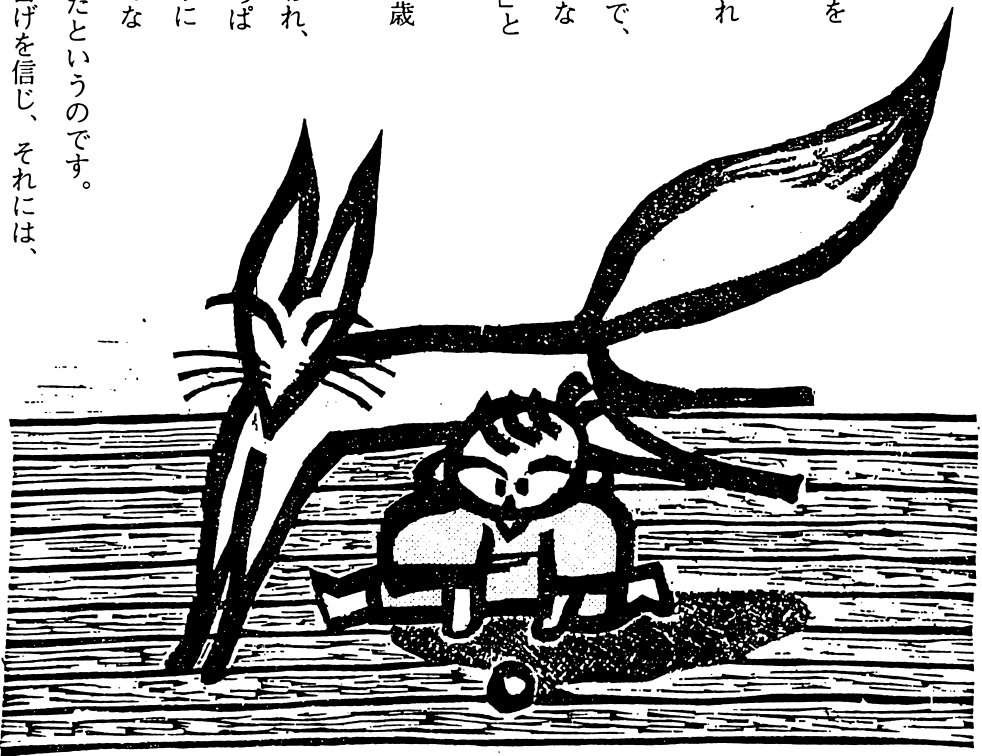
さい。」といい、鎌を授けていったのです。

目が覚めた母親は、白狐のお告げを信じ、それには、

やはり都で学問をさせてあげなければと考えました。

それからしばらくして、御食子は妻子を伴い、鹿島を後にして再び都へ向かったということになります。また、「鎌子」という名は、白狐の授けた鎌からとったともいわれています。

ちなみに、鎌足神社の御神体は、二本の草などを刈る「鎌」で、木の箱に納められ、神社に安置されているそうです。



萬